

参加者からの意見

ACP 理念
安城市のACPの姿 (理念) ・患者・利用者の価値（観）を中心とした医療・ケアの実践 ・その人が望む生き方が実現できることを目標とする ・患者・利用者が“今”を穏やかに過ごせることをめざした支援 ・協働意思決定の実践 共に考え、共に悩み、共に営む ・誰もが意思決定においては当事者 ・世間話をしよう ・相手を尊重する姿勢 ・専門職としての矜持を持つ
「これからの自分の生き方について身近な人と繰り返し、そして遠くの人とも時々話す、そのプロセスを大切にしよう」
『医療の進歩とともに治療の選択肢も増え、患者家族は様々な選択や決定を迫られることがあるでしょう。ただ、どのような決定をしようとも、 住み慣れた地域（望む場所）で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、本人・家族のみでなく医療・介護・福祉職者ともに話し合い結論を出すためのプロセスです。 その人の価値観や望みは置かれた状態や心身の状況により常に変化するものであり、対話を繰り返し総括的に捉えるためにも繋ぐ環境（連携）を構築していく必要があります』
『住み慣れた地域で自分らしい暮らしを最期まで続けることができるための地域包括ケアにおける支援方法』多職種のケア・医療従事者が相手の価値観を知ろうとし、そして相手が価値観を伝えることが当たり前になれば、協働して意思決定支援ができ、本人の意思を尊重した暮らしを最期まで続けることができると思います。
住み慣れた地域で、療養したいという方が、在宅の療養さらには看取りという選択が出来るように地域医療・介護の体制づくりを進め人生の最終段階の本人、家族を支えられる。
「人生の最終段階において、本人の意思が尊重され、たとえ本人の意思が確認できない場合においても、本人が希望する「生を全う」できること。」 (作業部会の理念) 本人、本人を取り巻く、家族・地域・医療（在宅・病院）・介護（在宅・施設）の間の壁を無くし、本人の最善の利益のために、何度でも話し合える環境を整備する。」 「元気なうちから本人の人生観、価値観、本人らしさを表出する機会づくりを行う。」 「関わる専門職が本人の価値観を知り、本人、家族にわかりやすい言葉、専門知識を持って、聞き取り（情報収集）、説明、相談、話し合いが出来る技術を持つ。」
市民側 自分の価値観・大切な事を言葉で表し、家族とも話し合うことによって、これからの人生を豊かなものにしましょう。 専門職側 ・対象者の価値観・大切な事を自然と話し出せるような関係を構築し、また、関わったすべての職種が情報共有する事により、対象者にとって最善のケアをしていきましょう。 ・市民の方々にめざす姿を分かり易く説明し、「自分ごと」として捉えてもらいしょう。

地域住民のACPの普及活動を行うとともに医療、在宅、介護が連携し地域の高齢者や疾病や障害のある方の人生の最終段階における意思決定支援の実現を目指す

「住み慣れた場所で どう死にたいかではなくどう生きたいかをみんなで考え 自分らしく生きるを支援する」 ～意思形成支援、意思表示支援、意思実現支援の実行～

私が思うのは看取りに限らずどんな人も自分の生きかた、逝きかたがあると思います。
安城市看取り体制のめざす姿でもあるように『本人が望む場所で、自分らしく最期まで今を生きる』を受け止めてあげたいと思っています。
基本ヘルパーなど在宅は本人の気持ちが大事と思って支援しています。
そこに家族の気持ちや関わる方の思いが加わるので思い通りにならないこともあると思います。
改めて正式表明ではなくても「痛いのは嫌なんだ」とか「一人は寂しんだ」など利用者がつぶやくことも意思だと思います。「延命処置はしたくない」と言っても気持ちが変わることもあると思います。状態が変化するたびに聞いていくことが決定で良いし、意思を表せなくても家族間でもめないなら良いと思います。
事業所の理念でもあるように「笑顔あふれる生活のために」ぜひ協力しあいたいと思います。
『わたしがわたしらしくいるために』 が私の理念です。